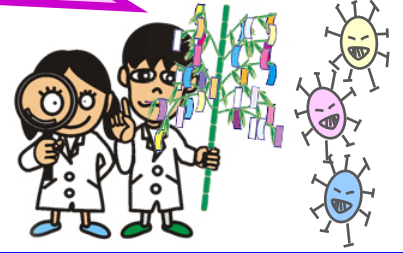


感染症に気をつけよう!

2020年【7月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症*	 発生	 増加	6月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
小児科定点医療機関 からの報告*	 発生		咽頭結膜熱(プール熱)やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎など、例年に比べて少ない報告数です。
新型コロナウイルス 感染症**	 発生	 やや減少	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.6号】

参考ホームページ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所
横浜市感染症情報センター



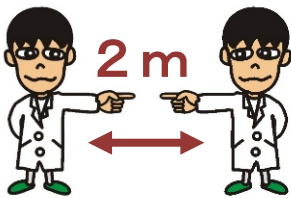
今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



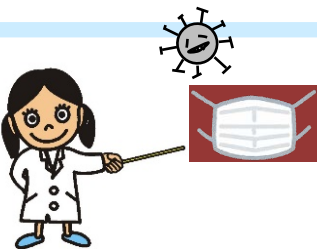
知らないうちに、拡めちゃうから。



- ◆ 一般的に、肺炎などを起こすウイルス感染症の場合は、症状が最も強く現れる時期に、他の人へウイルスを感染させる可能性も最も高くなると考えられています。
- ◆ しかし、**新型コロナウイルスでは、症状が明らかになる前から、感染が広がる恐れがある**とされています。自分が感染しているかもしれないと考えて、周りの人への配慮を心掛けましょう。



- ◆ 人と人の距離をとること、マスクの着用、咳エチケットなどの対策が大事です。
- ◆ **人との間隔は、できるだけ2m**(最低1m)空けます。
- ◆ 外出時や室内でも会話をする時、人との間隔が十分とれない場合は、**症状がなくてもマスク**を着用してください。
- ◆ ただし、夏に気温・湿度が高い環境でマスクを着けると、**熱中症のリスク**が高まります。屋外で人と十分な距離が保てる場合には、マスクをはずすようにしましょう。



厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

